

用語解説

(五十音順)

用 語	解 説
アウトソーシング	外注、外製(がいせい)ともいい、企業や行政の業務のうち専門的なものについて、それをより得意とする外部の企業等に委託すること。
インセンティブ	給料形態の一つで、業務の成果や実績に応じて給料や賞与などを変動させる制度のこと。「インセンティブ制」や「変動賞与制度」とも呼ばれている。
インターンシップ	学生が在学中に、企業等において自らの専攻や将来希望する職業に関連した就業体験を行うこと。
AAAE (芸術経営教育者協会)	Association of Arts Administration Educators(1975年創設) アメリカにベースを置く非営利組織で、アートマネジメント教育に携わる高等教育機関関係者のネットワーク。大学におけるアートマネジメント分野のカリキュラム、教育方法等について情報交換・研究交流を目的とする。
オフィス・アワー	専任教員が研究室などで個別に、授業や研究上の質問や相談、生活上の相談窓口となるという学生サポートの制度
学術リポジトリ	大学等の研究機関において生産された電子的な知的生産物を収集・保存、原則無料で公開発信するためのインターネット上のシステム
カリキュラムポリシー	教育の実施に関する基本的な方針
CAP 制(キャップ制)	<p>単位の過剰登録を防ぐため、1年間あるいは1学期間に履修登録できる単位の上限を設ける制度。</p> <p>我が国の大学制度は単位制度を基本としているが、大学設置基準上1単位は、教員が教室等で授業を行う時間に加え、学生が予習や復習など教室外において学習する時間の合計で、標準45時間の学修を要する教育内容をもって構成されている。また、これを基礎とし、授業期間は1学年間におよそ年30週、1学年間で約30単位を修得することが標準とされ、したがって大学の卒業要件は4年間にわたって124単位を修得することを基本として制度設計されている。</p> <p>しかしながら、学期末の試験結果のみで単位認定が行われるなどの理由から、学生が過剰な単位登録をして、3年で安易に124近くの単位を修得し、結果として45時間相当に満たない学習量で単位が認定されているという現象が生じたことから、平成11年に、大学設置基準第27条の2第1項として、「大学は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるように努めなければならない」と規定された。</p>
GPA(グレート・ポイント・アベレージ)	<p>アメリカにおいて一般的に行われている学生の成績評価方法の一種。一般的な取扱いの例は次のとおりである。</p> <p>①学生の評価方法として、授業科目ごとの成績評価を5段階(A、B、C、D、F)で評価し、それぞれに対して4・3・2・1・0のグレート・ポイントを付与し、この単位当たり平均(GPA)を出す。</p> <p>②単位修得はDでも可能であるが、卒業のためには通算のGPAが2.0以上であることが必要とされる。</p> <p>③3セメスター(1年半)連続してGPAが2.0未満の学生に対しては、退学勧告がなされる。(但し、これは突然退学勧告がなされるわけではなく、学部長等から学習指導・生活指導等を行い、それでも学力不振が続いた場合に退学勧告となる。)</p> <p>なお、このような取扱いは、1セメスター(半年)に最低12単位、最高18単位の標準的な履修を課した上で成績評価し、行われるのが一般的である。</p>
ゲストスピーカー	客員演説者

用語	解説
コンピテンシー	高業績者の行動特性などと訳される。企業などの人事考課に活用される手法で、職種別に高い業績を上げている従業員の行動特性を分析し、その行動特性を評価基準とし従業員を評価することで従業員全体の質の向上を図ることを目的としている。
コンプライアンス	法律や規則、社会規範などに背くことなく、企業活動などを行うこと。
サバティカル制度	大学などで、研究等のため、長期間付与される有給休暇
スタッフ・ディベロップメント (SD)	教員に加え事務職員や技術職員など、教職員全員を対象とした、管理運営や教育研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組
スチューデント・アシスタント (SA)	TA(下記参照)とは区別して、大学院生でなく、学士課程の学生を教育の補助業務に携わらせること。
チューター制	大学において、大学院生等が学士課程の学生への学習助言を行う制度。
ティーチング・アシスタント(TA)	優秀な大学院生に対し、教育的配慮の下に、学部学生等に対する助言や実験、実習、演習等の教育補助業務を行わせ、大学院生への教育トレーニングの機会提供を図るとともに、これに対する手当での支給により、大学院生の処遇の改善の一助とすることを目的としたもの。
ディプロマポリシー	卒業認定・学位授与に関する基本的な方針
TOEIC(トイーック)	Test of English for International Communication の略称で、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストであり、世界約 60 ヶ国で実施されている。
TOEIC ブリッジ	TOEIC 試験の初級・中級者向けの英語のテスト。目安としては、TOEIC のスコアで 450 点以下の人が適している。
TOEIC スピーキング/ライティングテスト	これまでの受動的(リスニング、リーディング)能力を測定する TOEIC テストとは別に、能動的な能力(スピーキング、ライティング)を測定するテスト
パブリシティ	マスメディアに流される、製品やサービスに関する報道
PDCAサイクル(ピーディーシーイーサイクル)	事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つ。Plan(計画)→ Do(実行)→ Check(評価)→ Act(改善)の 4 段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する。
ファカルティ・ディベロップメント(FD)	教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。
ユニバーサル・デザイン	高齢であることや障害の有無などにかかわらず、すべての人が快適に利用できるように製品や建造物、生活空間などをデザインすること。
リサーチアシスタント(RA)	研究補助として働き、主として大学院生が経済的援助を受けるもの。
リサーチプロジェクト	本来の組織とは別に、調査・研究のために臨時で構成される組織やその業務のこと。
ワーキンググループ(WG)	何か問題や課題が発生した際にその解決のために特別に組成されるチーム・実務部隊のこと。プロジェクトチームとほぼ同意義だが、プロジェクトチームよりも非公式の組織という意味合いが強い。
ワークショップ	一方通行的な知や技術の伝達でなく、参加者が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で何かを学びあったり創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイル。

※ 文部科学省資料、本学資料のほか、インターネットから作成